

平成29年度 地域医療体験セミナー

【 鶴岡協立病院・山形県立こころの医療センター 】

9月22日（金）に鶴岡協立病院、山形県立こころの医療センターにて地域医療体験セミナーを行い、看護学科4年生6名が参加しました。

鶴岡協立病院では、医療生活協同組合 やまがたの組織及び特徴について説明をいただいたのちに、地域包括ケア病棟等の病院内施設や、隣接する介護老人保健施設等の見学を実施しました。その後、副総看護師長及び地域包括ケア病棟の看護師2名と、地域に根差す医療体制の構築について学生と意見交換を行いました。

山形県立こころの医療センターでは、こども・思春期外来や養護学校等を中心に、院内見学を実施しました。その後、当大学卒業生を含む認定及び専門看護師等と、働くことやキャリアアップに関することについて意見交換を行いました。

※セミナーを体験した学生からは次のような感想がありました。

鶴岡協立病院

- ・今までの実習では急性期病院でしか実習してこなかったので、急性期病院から在宅のハブ機能を持った病院について理解できた。
- ・患者を急性期から慢性期まで、様々な関連施設とつながり、切れ目なく一連にわたり支援できるような体制について学んだ。
- ・多職種との連携は不可欠であり、連携にはコミュニケーションが重要と感じた。
- ・多職種とも気軽に相談できる環境づくりを心掛けていく必要性が理解できた。
- ・病院以外の施設との情報共有の重要性が理解できた（Net4Uの活用など）。
- ・患者との定期的な意見交換を通して、患者の意見を踏まえた医療を展開していた。
- ・地域人々とともに医療・看護を作り上げていくことで、住みやすい地域になるのではないかと思った。

山形県立こころの医療センター

- ・看護師との意見交換から、就職後のことや精神科でもこころと身体を一緒にアセスメントする能力が必要と学んだ。
- ・県職員はジェネラリストかスペシャリストとして働くのか考えておく必要があると感じた。
- ・子供がこどもらしくのびのびと生活でき、治療を受ける環境が整っている。
- ・人材育成に力を入れ、質の高い看護を提供できるように病院全体で取り組んでいた。

全体を通して

- ・病院ごとに特色があり、比べてみると面白いと思った。どの病院も患者が安心して医療を受けることができるように環境を整備し、取り組んでいることが分かった。
- ・地元の病院であり、身近な病院の特徴を学ぶことで、非常に良い経験となった。
- ・看護師は患者の命と隣り合わせであるために、安心安全な医療を提供するためにも、就職後も学習を重ね知識や技術を積み重ねていくことが大切であると感じた。
- ・Net4Uなどの新たな連携プログラムの導入など、現状維持ではなく新たな試みをすることで、環境がさらに良い方向に向かっていくと感じた。

